

竹富島(沖縄)に学ぶ

竹富島の地理

沖縄県竹富町竹富

図 1(省略)

周囲 9.2km、面積 5.4 平方キロ、標高 24mの平坦な小島

東京の南西約 2200km、沖縄本島の南西約 600km、石垣港の南西 5km

人口 271 人(うち 65 歳以上 96 人、寝たきり・ボケ老人なし)、増加中

世帯数 127 戸 (以上 1996 年 5 月調べ)

赤瓦の屋根、家々を囲む石垣、白く整然とした道、緑の木々など昔ながらの街並みが保存されている

竹富島環境保全の歴史

1972: 沖縄復帰、国立公園指定

1982: 全国街並み保存連盟に加盟

1986: 竹富島憲章制定——売らない、壊さない、汚さない、乱さない、生かす

1987: 重要伝統的建造物群保存地区に指定

竹富島に学ぶ

総人口が 271 名、65 歳以上が 96 名の小さい島に、年間 30 万人の観光客

文化は人を呼ぶ

J ターン現象、I ターン現象

図 2

街並み保存活動

土地の転売禁止

マイカー乗り入れ禁止・規制、周回道路

街並み保存運動 = エコ・ツーリズム

小樽、滋賀県五個荘町、松阪等との連帯

伝承の場としての祭り

表 1

保存修理事業

表 2

今後の課題

入域者数の規制

お金の稼げるガイド・後継者の育成

観光税

竹富島の特長・良さを更に追求すること

例: 健康に死を迎えることの出来る島

図 3

凜とした島人の生活感とか美意識が目に見えるようにすること
民俗学者(真島俊一)の報告

1975年(高度成長期直前)と1994年(近代化後)を比較して
水(天水、井戸水)を大事に使っていた
畑も綺麗に使われていた
全体に島が綺麗・清潔だった(江戸時代の日本、ウルルンに報告されたエチオピアの未開部落)

竹富島の教訓

グローバリゼーションという標準化、アメリカ化批判
自己肯定、個性化の重視(特に日本人にとって重要)
長期的展望の中で生かすマーケティング開発
業者、行政からの嫌がらせ、妨害

職業別人口構成

表 3

(図、表は省略)

以上